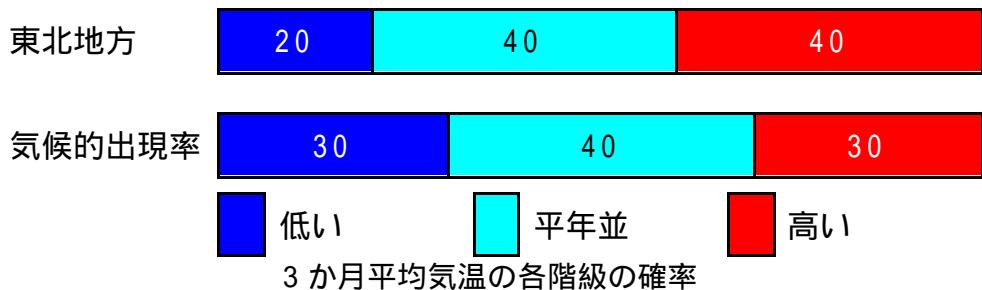


# 東北地方 3 か月予報 (11 ~ 1 月) の解説

平成 11 年 10 月 20 日 仙台管区気象台

## 1. 予想される天候

### (1) 3 か月平均気温の予想される各階級の確率 (%)



#### [ 概要 ]

11 ~ 1 月の 3 か月平均気温は、「平年並」か「高い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40% です。「低い」の可能性は小さく、その確率は 20% です。

### (2) 可能性の大きな天候の特徴

	11 月	12 月	1 月
気圧配置	低気圧や高気圧が数日の周期で通過し、一時冬型の気圧配置となって寒気が入る。	時々冬型の気圧配置となる。	時々冬型の気圧配置となるが長続きしない。
天 気	天気は周期的に変化するでしょう。 平年と同様に、東北日本海側では曇りや雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多い見込みです。	平年と同様に、東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。	東北日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
気 温	平年並	平年並	高い
降 水 量	平年並	平年並	平年並

なお、11 ~ 1 月の 3 か月間の降水量は「平年並」の可能性が大きいでしょう。東北日本海側の降雪量も「平年並」の可能性が大きいでしょう。

#### <参考資料>

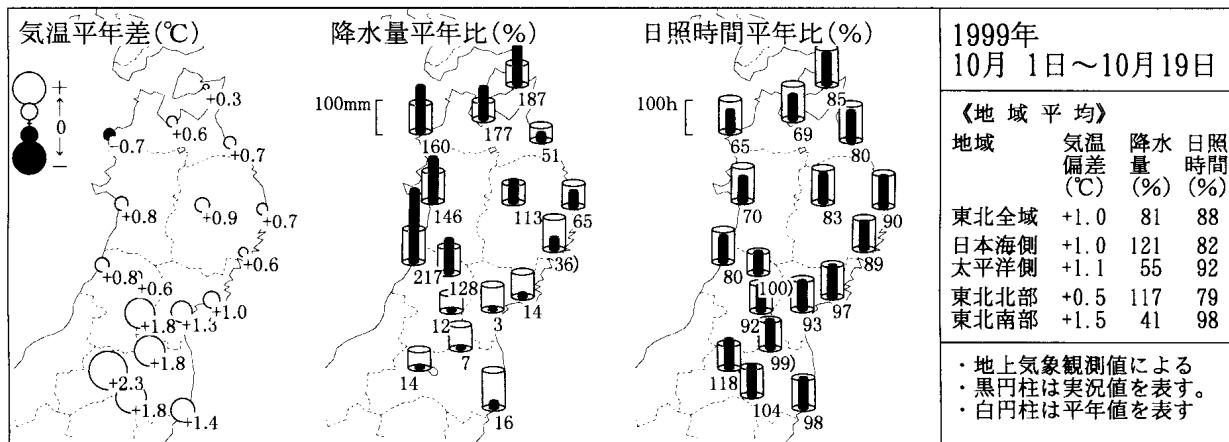
### 平年のおおよその天気出現割合 (%)

	11 月		12 月		1 月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	35	62	22	64	21	68
雨の日	53	27	63	23	66	23

注：季節予報では、「日照率 40% 以上の日数」、「日降水量 1mm 以上の日数」を晴れの日、雨の日の目安として用いている。この 2 つの事象は同じ日に起こりうるため、両方に数えられる日もある。日照率は、1 日の日照時間を可照時間（太陽の中心が東の地平線に現れてから西の地平線に没するまでの時間）で割った値である。

## 2. 最近の天候経過と循環場の特徴

### (1) 最近の天候経過



### 東北地方における10月の平均気温、降水量、日照時間

10月(19日まで): 上旬は低気圧や高気圧が交互に通り、天気は数日の周期で変化した。

中旬も東北南部は引き続き天気は周期的に変化したが、東北北部は低気圧や前線の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多くなった。

中旬中頃には全国的に寒気が入ったため、各地で初冠雪を観測し(4.季節現象参照)、19日には晴れて放射冷却も加わりこの秋一番の冷え込みとなった。

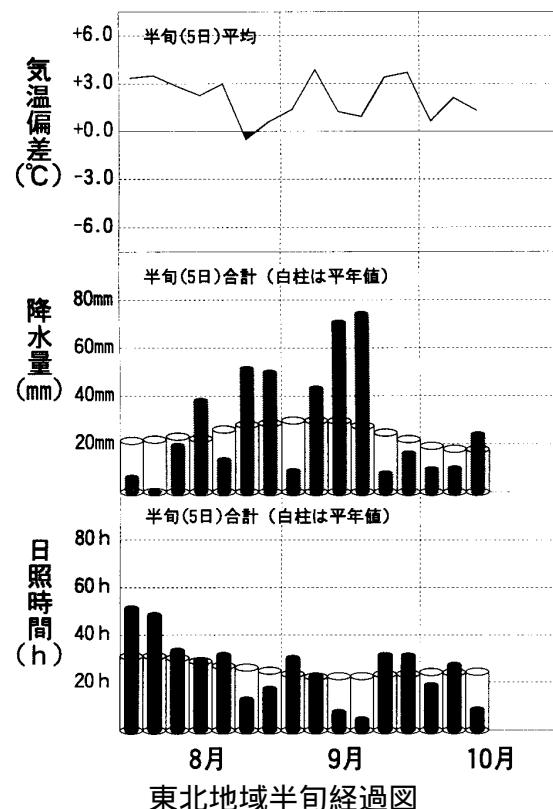
この期間の平均気温は9月に引き続き高温傾向で、東北北部で平年を0.5上回り、東北南部では平年を1.5上回った。降水量は、低気圧や前線の影響を受けやすかった東北北部は117%と平年を上回ったが、東北南部は41%と平年を下回った。日照時間は、東北北部で平年の79%、東北南部で98%だった。

### (2) 中・高緯度の循環

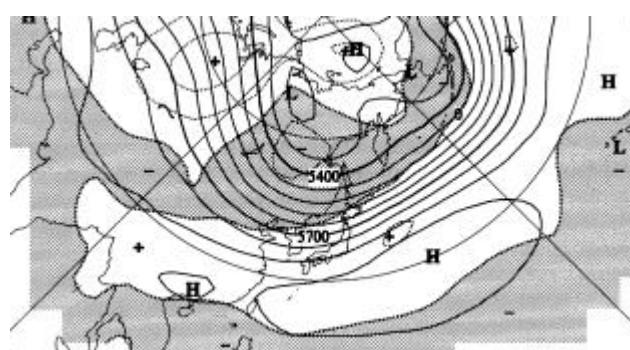
10月: 極付近は正偏差で寒気の放出場となった。しかし、極東付近の偏差をみると、寒気に対応する負偏差域は北海道以北で、日本付近は9月に引き続き東西に広がる正偏差に覆われた。

500hPaの流れは日本付近で東西流(ゾーナル)が卓越し、南東海上の太平洋高気圧の勢力は平年より強く、西谷傾向が持続した。

これは、東北地方に寒気が入りにくく、気温が高く経過したことや、天気は周期変化が基調だが低気圧や前線の影響を受け天気がぐずつく時期があったことに対応している。



東北地域半旬経過図



10月1～19日平均500hPa天気図

等値線間隔60m

陰影部は平年より高度が低い領域

### (3) 热帯太平洋の状況

エルニーニョ監視海域（北緯4度～南緯4度、西経150度～西経90度）の9月の海面水温偏差は、-0.8であった。9月の太平洋赤道域の海面水温は、東経160度以東で平年より低く、西経140度と西経125度付近及び西経115度から西経100度にかけて-1以下の負偏差が見られた。一方、東経125度から東経150度にかけて+0.5以上の正偏差が見られた。

また、9月の南方振動指数は-0.1（暫定値）であった。

（南方振動指数は貿易風の強さの目安であり、正（負）の値は貿易風が強（弱）いことを示す。）

#### エルニーニョ監視指数

エルニーニョ 監視海域	1998年			1999年									
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月平均海面水温（）	23.8	24.1	23.8	24.2	25.5	26.8	26.7	26.4	25.5	24.8	24.0	23.8	
平年偏差（）	-0.8	-0.5	-1.1	-1.2	-0.7	-0.1	-0.4	-0.2	-0.6	-0.4	-0.6	-0.8	
5か月移動平均（）	-0.6	-0.8	-0.8	-0.7	-0.7	-0.5	-0.4	-0.3	-0.5	-0.5			
南方振動指数	+1.2	+1.0	+1.5	+1.5	+0.8	+0.8	+1.8	+0.3	+0.1	+0.6	+0.0	-0.1	

注：海面水温の平年値は、1961～1990年の30年平均値である。

### (4) エルニーニョ現象等の今後の見通し（1999年10月～2000年4月）

エルニーニョ監視海域の海面水温が平年より低い状態は今後2、3か月持続し、その後も平年並からやや低めに経過する。

南方振動指数に見られるように、貿易風は今年の春以来次第に弱まり平年並に近づいたが、東部太平洋赤道域の海面から深度150mまでの水温は平年より1から2低く、西部の正偏差域にも顕著な変化は見られない。このような実況から今後数か月間、監視海域の海面水温偏差は負の状態が続く可能性が高い。

監視海域の海面水温偏差5か月移動平均値は6月から-0.5以下の状態が続いているので、再びラニーニャ現象の基準を満たす可能性もある。

### 3. 前回（9月20日）発表の3か月予報からの変更点

なし。

### 4. 季節現象

月日	現象名	平年差（日）	昨年差（日）	官署名
10月17日	初冠雪 八甲田山	+ 3	- 9	青森地方気象台
	初冠雪 岩木山	+ 1	-20	青森地方気象台
	初冠雪 岩手山	+ 5	- 3	盛岡地方気象台
	初冠雪 烏海山	+ 8	- 3	酒田測候所
	初冠雪 吾妻山	- 4	-20	福島地方気象台
	初冠雪 飯豊山	0	-20	若松測候所
10月18日	初冠雪 太平山	-16	-23	秋田地方気象台
	初冠雪 蔵王山	- 9	-19	仙台管区気象台
	初冠雪 月山	+ 3	- 9	山形地方気象台
	初冠雪 朝日岳	- 1	-18	山形地方気象台
	初冠雪 雁戸山	- 8	-23	山形地方気象台
	初冠雪 滝山	-10	-23	山形地方気象台
10月19日	初霜	- 5	- 8	盛岡地方気象台
	初氷	- 2	-14	盛岡地方気象台
	初霜	0	- 8	山形地方気象台
	初氷	- 8	-25	山形地方気象台

注：平年差、昨年差において、「-」は早い、「0」は平年と同じ、「+」は遅いを示す。